観点・小問ごとの分析	対策の視点
低地の道路建設の正答率は62%、高原の野菜づくりの正答率は58%である。誤答の多くは、低地を山地、高原を山地と答えるなど、低地・山地・高原の区別ができていない。 台風の通り道になっている暖かい地方の様子は59%である。寒い地方の農業の様子についての正答率は88%と高い。	を判断しないように指導する。 ◦ 特色ある人々の生活については、自然条件と人々の生活からみた典型例で、写真・地図などを用いて指導する必要がある。
5. 県内の地域の開発につくした先人の働き 正答率は、二宮仕法が51%、矢吹ケ原の開発が52%、万世大路が53%、川内村の開発が43%である。誤答の多くは、羽鳥湖と安積疏水、万世大路と奥州街道、川内村の開拓と矢吹ケ原・松川浦と結びつけて答えているものが目だつ。	◦ 開発の事例については、「だれが」「どのようなことを」「いつ」といった具体的な内容を写真・施設・道具などを利用して理解させるとともに、当時の開発の苦労を切実に訴える必要があろう。 ◦ 「わたしたちの郷土　福島県」の―郷土の開発―を活用する必要がある。
6. 水害の予防と対策 河川の改修についての正答率は58%、災害時の地方公共団体の協力体制は58%である。誤答の多くは、「河川工事の費用が商店などの寄付によってまかなわれている」と考えているものが多い。	◦ 水害がどのようにして起こったのか、被害の様子や原因について、具体的な事例を通して指導する。 ◦ 水害を受けた場合の復旧活動の様子を、具体的な事例によって理解させるようにする。 ◦ 河川工事は公共事業として行われていることを指導しなければならない。 ◦ 大きな災害については、古老の話を取り入れて指導するのも一つの方法であろう。
7. 低地の人々のくらしの工夫 微高地の正答率は86%と高い。 もり土や石がきの正答率は、それぞれ38%、50%である。誤答例は、もり土を「がんぎ」に、石がきを「もり土」に答えているものが多い。米づくりの正答率は70%である。	◦ 低地・台地・高原など特色ある地域の自然景観や人々の生活について、類似点や相違点をはっきりさせる。 ◦ 「輪中」や「がんぎ」などの用語も図や写真と結びつけてしっかりと指導する。